からだとは・病とは(30) 続・保健所がフッ素推進に来た　鈴木斉観（斉観堂治療院）

WHO が「6 歳未満のフッ素洗口は禁忌」としているということへの見解が、浜松市歯の健康センター所長から回答された。その内容を引用する。

> WHO のテクニカルレポート№846（1994 年）‥に６歳未満の子どもにフッ素洗口をしてはいけないと書かれているのは事実です。しかし、その文章の前文を読んでみると、水道水等にフッ化物が添加されるなどの他の方法で１日のフッ化物摂取量が過剰になる地域においては、フッ素洗口は勧められないと書かれています。よって、日本は、水道水や食塩、ミルクなどにフッ化物を添加することによるむし歯予防法が用いられていない地域であり、フッ化物を過剰に摂取することは考えられなく、６歳未満の子どもにフッ素洗口をしてはいけないということがあてはまりません。このことをくわしく解説している「日本口腔衛生学会」がまとめた解説文の資料を添付します。

当の WHO のレポートには確かに、所長の見解に関連あることは書かれていて、添付されていた日本口腔衛生学会の資料には、「この見解は各国の事情を個別に考慮した上のものではなく、一般的なガイドラインを示したものと考えられる」とある。

しかし、WHO のレポートの「結論」と題した箇条書きの部分では、明確に、但し書きなどなく、「フッ化物洗口は６歳未満の子供には処方されない」と書かれているのである。

6 歳未満では洗口にあたって、吐き出しが十分でなく、過剰に飲み込んでしまう危険がある。それを考慮しても、水道水などにフッ素が添加されていな日本では、問題ないというのが所長や日本口腔衛生学会の見解なのだろうが、WHO はもっと過剰な飲み込みの危険を重視しているのはないだろうか。

推進派が WHO のレポートを捻じ曲げて解釈してまで、むし歯予防にフッ素を広めようとする理由の深層は何なのだろうか。経済的な利権か？功名心か？学者内の力関係か？私には想像がつかない。しかし薬害エイズ事件などを見ても、科学者が非科学的な理由によって、科学を捻じ曲げ、一方で「科学」という言葉を振りかざして推進した結果の事件であることを思い出さなければいけない。「科学者の端くれ」と書かれている所長ならば、尚更である。

所長は、むし歯予防にフッ素を使う方法への反対派の存在に触れ、「とても科学的な報告と思えないものが非常に多い」とも書かれている。幸い、私がインターネットで得た資料は論理的に推進派の「科学的」データが科学的でないと批判している。

ただ私の立場は科学論争の影響を受けない。①フッ素が有効か有害かという話以前に、虫歯予防には必要なく、②自然摂取量を超えて、フッ素を摂取するのは、不自然なことであって、不自然なことは何らかの形で必ず人に有害であるというのが私の立場である。そして「だらだら間食」がむし歯の最大の原因だと思っている。「だらだら間食」排除がどれだけむし歯予防に有効かを検証して欲しいと思う。しかし商売につながらないこうした研究は成されることは少なく、結局、「だらだら間食」排除の有効性はいつまでも非科学的なものとなる。それが科学の社会的な姿である。

フッ素が良いという子供への刷り込み、集団フッ素洗口の一般化がやがて水道水へのフッ素添加につながることを私は危惧する。事は園児だけの問題ではないのである。

（2006 年７月 21 日）